



同窓会長の挨拶……………	2	教育学部140周年記念アルバム……………	16
教育学部長の挨拶……………	4	師範学校時代の版木紹介……………	18
平成26年度 同窓会役員……………	6	教育学部のルーツを探る……………	20
平成26年度 評議会報告……………	7	記念碑に文字を刻む……………	21
平成25年度 同窓会活動報告……………	8	教育現場から……………	22
学生の就職状況について……………	9	師範学校同窓会の活動……………	24
平成25年度 教育実践研究助成事業……………	10	退職・着任された教員の紹介……………	25
平成25年度 実践論文受賞者……………	12	各学科同窓会の活動……………	25
教育学部同窓生の集い開催報告……………	14	各学科事務局連絡先・編集後記……………	28



同窓会長の挨拶

同窓会長 後藤 忠喜
昭和 38 年度 数学科卒業

会員各位には、ご壮健にて爽やかにご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃は「岐阜大学教育学部同窓会」の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

岐阜大学教育学部は、明治 6 年「大垣藩庁舎」で「師範研習学校」としてスタートしました。当時県内各地で小中学校が設置されたのですが、教える側の教員が無くて、急きょ近辺の人望ある人物を教員として採用したようです。旧来の寺子屋や私塾の師匠、僧侶、在地の知識人等がそれぞれのやり方で授業を行っていたようで、教員養成は切実な問題でした。

そこで、県内各地の教員をこの「師範研習学校」に入校させ、1 カ月ないし 2・3 カ月をかけて教師としての基礎となる指導のノウハウを教えたのが始まりのようです(大垣市史 通史編；近現代より)。

以来、複数の学校の統合、合併、編入、併設、移転、官立移管等々、激動の明治・大正・昭和・平成を生き抜き、その間 3 万人を超える卒業生を輩出し、全国各地で活躍してきています。現会員は 2 万人程です。

岐阜県においては、まさに「岐阜県教育の総本山」として、確固たる地位を築き上げてきました。

創立以来 140 年を迎え、本年はその記念として大きく二つの事業に取り組みました。140 周年記念行事「教育学部同窓生の集い」と「教育学部跡地(現岐阜市の長良公園)に建立された記念碑に文字を刻む」であります。

第 20 号となります、本同窓会報は、「140 周年記念特集号」として、ページ数を増やし、今年度取り組みました事業について、過去の写真も含めいろいろな形で紹介をさせていただいています。私たちの母校ではありますが、私たちの知らなかったことも結構ありまして、母校への思いを新たにさせていただけたらと願っています。

1. 140 周年記念教育学部同窓生の集い

この「教育学部同窓生の集い」は、140 年の歴史のなかでは初めての企画ではないかと思います。果たして同窓生の皆さんに理解をしてもらえるか。どのくらいの方に来てもらえるのか、見当もつきません。無謀かもしれないが「とにかくやってみよう」ということで、運営委員の方々の賛同を得て、お知恵をお借りしながらスタートさせました。

参加者が少なくは寂しいし、また多すぎると会場がありません。なかなか思うようにはいきません。が、「頭出し」をすることで今後の活動に役立てば、といった思いもありました。

式典への参加は約 120 名、パーティーへの参加は約 90 名と、まずまずの結果でした。お忙しい中を出席して頂いた皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

会の内容は文末の表をご覧ください。

式典での、教育学部の 140 年を振り返る、現在の教育学部の紹介、同窓会の活動の紹介は、いずれも映像を使ってお話で、3 名の内容がダブリもなくわかりやすくまとめてあったと好評でした。私たちが知らなかったことも随分あり、母校への想いを新たにされた方もおられたことでしょう。

最後を「ミニコンサート」で鮮やかに締めさせていただいて、中身の濃い充実した式典とすることができたと思っています。

記念パーティーは、90 名とやや少ない参加者でしたが、岐阜師範卒のご年配の方から、今年卒業の若い方々に加え、大学の先生方も出席され、横の交流と縦の交流、まさしく年齢の枠をはずした同窓会といったところで、いい会ができたと思っています。

残すところは、「もう少し参加者がほしかった」です。今ひとつ PR 不足があったかもしれません。今後の課題として残しておきます。

2. 教育学部跡地に建立された記念碑に文字を刻む

10年前130周年記念事業で設置された「26トンのインド産花崗岩；サファイアブラウン」の巨石です。設置にあたっては、当時の山口正和会長以下、役員の方々が随分ご尽力されたことと拝察します。

ただ、この巨石には文字が刻んでありません。文字を刻むかどうかについては、当時おそらく随分検討されたことと思います。創立140年を迎え、「この記念碑に見合う、何かインパクトのある文字を刻んではどうか。」との意見が出てきました。

運営委員会で検討を重ね、理事会・評議会で審議の結果、GOサインをいただき、「刻字」に着手したわけです。詳細につきましては、本誌の21ページに記載しましたので、ご覧ください。

いずれにしても、「140周年記念事業」を実施するに当たり、同窓会役員の皆様はじめ、多くの方々のご理解・ご協力のおかげでなんとか無事終えることができました。私にとってはたくさんの収穫を得て終えることができたという思いです。

ご協力いただきました方々に、厚く厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

岐阜大学教育学部140周年記念行事 「教育学部同窓生の集い」

と き 平成26年6月7日(土)15:00~17:30

ところ 大学講堂および第2生協

内容① 記念式典 15:00~16:00 出席者120名

挨拶		学部 同窓会長	後藤忠喜
//		教育学部学部長	池谷尚剛
来賓祝辞		岐阜大学 学長	森脇久隆
映像で振り返る教育学部140年	...	教育学部准教授	今井亜湖
岐阜大学教育学部の紹介	...	教育学部学部長	池谷尚剛
教育学部同窓会の活動紹介	...	学部 同窓会長	後藤忠喜
ミニコンサート		教育学部音楽教育講座	
		学生並びに朝田健教授ご夫妻	
閉会		学部同窓会副会長	野村武宏

内容② 記念パーティー 16:00~17:30 出席者90名

主催者挨拶		学部 同窓会長	後藤忠喜
乾杯		岐阜大学 学長	森脇久隆
歓談			
閉会		学部同窓会副会長	小森正子



教育学部の現状と今後の展開



教育学部長 池谷 尚剛

■ 新任あいさつ／140周年記念式典のお祝い

平成26年4月より教育学部長となりました池谷尚剛です。

教育学部同窓会におかれましては、平成26年6月7日に岐阜大学教育学部140周年記念行事として記念式典を盛大に挙行されましたことに御祝いと御礼を申し上げます。式典では、写真・資料等による師範研習学校からの140年間の足跡を示す展示や来賓の諸先生方からの激励のお言葉もありました。教育学部の使命は、140年間の教員養成の営々たる取り組みを引き継ぎ、発展させていくことであり、そこには不断の努力と変革に立ち向かう気概とが必要になるものとあらためて心に刻み込んだ次第です。

■ 新学長の目指す岐阜大学の将来ビジョン

岐阜大学は、平成26年4月に新学長として森脇久隆先生が着任(任期6年)して、「地域に根ざし、学び、究め、貢献する国立大学法人」の理念を、第2期中期計画(平成23年度～平成27年度)と、これから作成する第3期中期計画(平成28年度～平成32年度)で完遂すべく、2025年に向けた将来ビジョン(図1)を公表しました。岐阜大学における教育学部の主な役割は、将来においても高度専門職業人としての教員養成であり、それをもって地域社会の活性化に貢献すると共に、グローバル社会に対応する共通教育等による全学的な教育の質向上に寄与するものと考えています。

■ 教育学部・教育学研究科の現況

教育学部は、学校教員養成課程(230名)と特別支援学校教員養成課程(20名)の学生定員250名から構成され、全員が教育職員免許の取得を卒業要件としています。学校教員養成課程では小学校一種・中学校一種(学校教育講座は小・中いずれかと諸資格)、特別支援学校教員養成課程では小学校一種・特別支援学校一種を取得します。また、幼稚園、高等学校の教育職員免許、学校図書館司書教諭の取得や、公認スポーツ指導員、博物館学芸員、社会教育主事、認定心理士等の諸資格を取得

することができます。平成26年3月卒業生の進路状況は、教員59%、大学院等の進学13%、官公庁9%、一般企業等19%となっています。

大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻(教職大学院:20名)、心理発達支援専攻(11名)、総合教科教育専攻(38名)の学生定員69名で構成されています。教職実践開発専攻には、学校改善・授業開発・教育臨床実践・特別支援学校の4コースがあり、岐阜県教育委員会からの派遣教員も在籍して教育専門職としての力量形成に努めています。また、心理発達支援専攻には、臨床心理学・学校心理学・特別支援教育の3コースがあり、臨床心理士・学校心理士の養成カリキュラムにも対応しています。平成26年度から入学生を迎えた総合教科教育専攻には、言語社会コース(国語・英語・社会)、サイエンスコース(理科・数学・技術・家政)、芸術身体表現コース(保健体育・音楽・美術)、カリキュラム開発コースの4コースがあり、カリキュラム開発コースではサテライト教室の設置やインターネットを活用して社会人学生のニーズに応えるように努めています。

また、教育学部・教育学研究科の附属施設には、加納地区に附属小学校・附属中学校、柳戸地区に郷土博物館、特別支援教育センター、心理教育相談室、岐阜駅前サテライトにこころの相談室があり、教育実践に関する先導的・臨床的研究を行うと共に、地域社会に貢献するさまざまな相談・支援機能を発揮しています。

■ 教育学部の「ミッションの再定義」

平成25年度に国立大学法人はその役割を明確にするため、ミッションの再定義を公表しました。岐阜大学教育学部は、次の強みや特色、社会的役割をもつ教員養成を主目的とする学部として、再定義しました。このなかには数値目標を設定した項目もあり、その達成に向けた教育学部の取り組みを進めていくことになります。ミッションの一部を抜粋し要約しましたのでご参照ください。詳細は「ミッションの再定義」で検索できます。

岐阜大学の教員養成分野は、岐阜県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す大学として、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うとともに、岐阜県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図るものとする。

- 教員に占める小中高などの学校現場での指導経験のある教員(常勤)の割合

現在 約16% → 将来20%を確保

- 学部にて教育委員会職員や連携協力校の長等が構成員となる常設の諮問会議を設置
- 質の高い小学校教員を養成することによって岐阜県における教員養成の拠点機能を果たす。
- 岐阜県の小・中学校間の計画的な人員配置に対応できる質の高い中学校教員等を養成する。

卒業生の教員就職率<教員就職者/(卒業生一進学者)>
現在 71% → 将来 75%程度

岐阜県における小学校教員養成の占有率
現状 35% → 将来 40%を確保

- 過疎地域の教育体制の充実、特別支援教育の取組の拡大、幼少接続教育の指導体制の充実
- 教職大学院は、確かな指導的理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーの養成
- 附属学校等と協働して実践的課題解決に資する研究活動を行う、免許状更新講習の実施
- 現職教員研修のプログラム開発

教育学部の重点的な活動目標

岐阜大学の将来ビジョンと教育学部のミッションの再定義に基づき、平成26年度に教育学部が重点的に取り組む活動目標は次の6点としました。

- 1) ACTプランの学生評価を実施するとともに、附属学校・岐阜県教育委員会等と実践型教員養成機能の質的向上に関する検証を進め、ACTプランを改善する。
- 2) 岐阜県教育委員会等と高大連携に関するシンポジウムを開催して、入学選抜の在り方を検証する。
- 3) 学校・教育委員会等と連携した優れた研究成果について、ホームページの公開や、学部研究報告(人文科

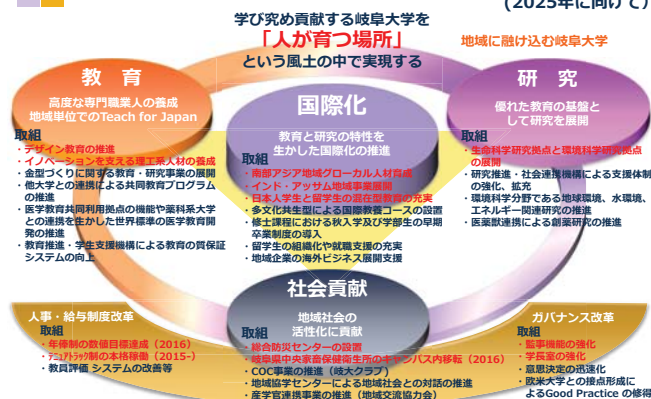
学、自然科学、教師教育研究)等の発行により、地域へ情報提供する。

- 4) 帰国留学生等とのネットワークを構築して情報を発信すること、教育に関する機関との交流協定を締結する。
- 5) 学校・教育委員会等と連携した教育活動を通して、地域の文化・教育の振興に寄与する。
- 6) 後援会・同窓会との連携を深め、教育活動等の支援を得る。

おわりに

この稿をまとめるにあたり、岐阜県教育委員会が平成20年に策定した「第一次岐阜県教育ビジョン」を検討する委員会で、教育における「不易と流行」とは何かを議論したことを思い出しました。私は、学部案内では「学校教育は、人格の完成を目的として、先生と子どもとが『学びあう』創造的な営みです。」と記し、研究科案内では「人に関わり、その人らしさを育て、支援する高度な専門職業人」と記しました。国立大学法人としての岐阜大学の将来ビジョン、そして教員養成学部としての教育学部のミッションの再定義と、やや堅苦しい面をご紹介させていただきましたが、こうした現実に対処しつつ、140年の歴史を貫いている教員養成の精神(スピリット)を次世代に引き継ぐよう努めたいと考えております。今後とも、同窓会の皆様方のご助言やご支援をお願いいたします。

第3期以降に向けての将来ビジョン (2025年に向けて)



(http://www.gifu-u.ac.jp/news/news/20140917_vision.pdf)

【図1：2025年に向けた将来ビジョン】



平成 26 年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

会長

後藤 忠喜 (S38 数学)

副会長

野村 武宏 (S39 物理)

田口 和男 (S43 生物)

小森 正子 (S41 家政)

村瀬康一郎 (S53 数学)

幹事 (◎部会長 ○副部会長)

総務部会 (担当副会長 村瀬康一郎)

◎ 村瀬康一郎 (S53 数学)

○ 田口 勝行 (S40 体育)

後藤 信義 (S47 英語)

棚橋 弘 (S48 音楽)

高橋 和子 (S49 美術)

組織部会 (担当副会長 野村 武宏)

◎ 加藤 直樹 (S54 物理)

○ 松岡 博 (S43 物理)

国枝 俊介 (S44 美術)

興戸 律子 (S54 数学)

事業部会 (担当副会長 田口 和男)

◎ 浅野 佳正 (S46 数学)

○ 吉田 政直 (S47 体育)

黒田 隆吉 (S47 地学)

高橋 雅裕 (S47 数学)

山田 正昭 (S49 地学)

林 百合子 (S46 教育)

広報部会 (担当副会長 小森 正子)

◎ 辻 泰秀 (S55 美術)

○ 大塚 頼明 (S43 国語)

小牧 壽 (S45 地理)

高橋 忠明 (S48 技術)

今井 亜湖 (H10 技術)

監査

高田 哲夫 (S41 数学)

赤塚 邦芳 (S43 史学)

川瀬 喜生 (S45 数学)

評 議 員

大学系			
国文	藤根 隆	S63	
	村山 邦博	S63	
	吉永 康昭	H5	
	富山 哲成	H8	
史学	吉田 雪絵	H8	
	西村 寛良	S39	
	小川 敏雄	S40	
	友田 靖雄	S40	
地理	丹羽 柳三	S42	
	赤塚 邦芳	S43	
	松田 孝弘	S36	
	小牧 壽	S45	
法経	小林 直樹	S50	
	豊島 博	S58	
	堀江 秀樹	S58	
	山本 譲	S48	
哲学	井森 宗吉	S51	
	村井 俊之	S56	
	丸山 靖生	H3	
	古川 徹	H19	
数学	近藤 新八	S43	
	柘植 卓伸	S52	
	國定 幸敏	S53	
	榎井奈津子	H 元	
物理	奥村 直也	H5	
	秋山 健	S36	
	後藤 忠喜	S38	
	内田 一之	S43	
化学	宮脇 恭顕	S43	
	熊崎 盛敏	S55	
	奥田 好紀	S56	
	若曾根 隆	S58	
生物	堀部 昇	S61	
	市原 隆行	H2	
	竹腰 宣行	H3	
	柘植 良雄	S50	
	森 社	S51	
	小柳 欣也	S51	
	服部 公彦	S57	
	酒井 茂	S62	
	安藤 志郎	S43	
	大野 伴和	S52	
	井上 好章	S53	
	渡辺 寛樹	H9	
	細江 達三	H18	

大学系			
地学	小栗 敬彦	S42	
	山元 敏治	S45	
	岩田 将之	S48	
	大平 柳一	S49	
音楽	水谷 憲司	S55	
	棚橋 弘	S49	
	羽土 聡	S59	
	山田真紀子	S55	
美術	杉本 公彦	S61	
	三本木陽子	S51	
	酒井 賢	S34	
	長谷川 清	S37	
体育	國枝 俊介	S44	
	竹市 安彦	S49	
	鬼頭 立城	S60	
	中村 博巳	S39	
技職	田口 機子	S40	
	石子 裕朗	S45	
	岡部好四郎	S52	
	谷端 良夫	S55	
家政	伏屋 敬介	S46	
	高橋 忠明	S48	
	清水 茂樹	S59	
	吉田 竹虎	S63	
英語	淀川 雅夫	H8	
	杉山 恵子	S48	
	清水 優子	S50	
	有尾 陽子	H5	
教育	大畑 恵美	H6	
	伊藤 有里	H7	
	中村 美幸	S40	
	後藤 信義	S47	
	高橋 克	S50	
	深尾 雅人	S57	
	山下 敦子	S60	
	安田 和夫	S53	
	柳川 禎章	S53	
	神谷 弘子	S53	
	松井みどり	S54	
	江崎 麻美	S61	

師範系			
師範 男子	西脇 成紀	S20	
	田口 謙介	S22	
	宮脇 修	S24	
	安藤 俊夫	S25	
師範 女子	高井 玉枝	S15	
	大前 美子	S16	
	田中 良泉	S17	
	野中 和子	S20	
青年 師範	小倉三千子	S23	
	安藤 雅子	S24	
	恩田 千束	S25	
	安田 嗣朗	S21	
	村上 實	S22	
	内田 英夫	S23	
	石田 幸彦	S24	
	今井 昌喜	S25	
	服部 真六	S26	
	乾 乃武子	S26	

理 事

大学系			
国文	曾我部領史	H8	
史学	西村 寛良	S39	
地理	松田 孝弘	S36	
法経	大平 橋夫	S40	
哲学	谷本 龍馬	S50	
数学	堀部 邦雄	S36	
物理	鈴木 雅史	S50	
化学	華井 章裕	S46	
生物	小椋 郁夫	S49	
地学	小島 理生	S39	
音楽	棚橋 弘	S49	
美術	石原 通男	S32	
体育	高橋 茂徳	S41	
技職	伏屋 敬介	S46	
家政	野村 令子	S34	
英語	古澤 哲男	S42	
教育	堀井 恕直	S34	
師範系			
男師	宮脇 修	S24	
	安藤 俊夫	S25	
女師	安藤 雅子	S24	
	内田 英夫	S23	
青師	石田 幸彦	S24	

平成 26 年 12 月 1 日現在

平成 26 年度 岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日 時 平成 26 年 6 月 7 日（土） 13 時 00 分から
場 所 教育学部本館 7 階 第一会議室
出席者等 評議員・理事・役員 132 名（内委任状出席 77 名）
会 議 議事については、議長として田口和男副会長を選出し、以下の事項について審議した。



- ① 平成 25 年度事業報告
田口総務副部長、加藤組織部長、浅野事業部長、辻広報部長から資料に基づき報告があった。
- ② 平成 25 年度決算報告
田口総務副部長から 25 年度の会計決算報告がなされた。
- ③ 会計監査報告
高田会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切になされている旨の報告がなされた。
- ④ 事業報告及び決算の承認
審議の結果、報告の通り 25 年度事業と決算が承認された。
- ⑤ 次期同窓会長候補者推挙委員の選出
次期同窓会長選出について、会則に則り会長候補者推挙委員の選出を行うこととした。
- 投票の結果として、
西村覚良氏 友田靖雄氏 小牧 壽氏
柘植良雄氏 宮本英洋氏 を選出した。
- ⑥ 平成 26 年度事業計画
田口総務副部長、加藤組織部長、浅野事業部長、辻広報部長から各部の事業計画の提案がなされた。
- ⑦ 平成 26 年度予算審議
田口総務副部長から、26 年度予算についての提案がなされた。
- ⑧ 事業計画案及び予算案の承認
審議の結果、平成 26 年度の事業計画と予算を承認した。
- ⑨ その他

平成 25 年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

＜収入の部＞	科目	決算金額
	前年度繰越金	2,870,669
	同窓会費	6,750,000
	事業活動基金より繰入	0
	雑収入	660
	合計	9,621,329

＜支出の部＞	科目	決算金額
	運営費	2,269,597
	庶務費	1,392,000
	事務管理費	505,142
	役員会費	284,991
	通信費	38,068
	渉外費	8,446
	交通費	40,950
	組織活動費	1,749,903
	名簿管理費	1,193,083
	名簿作成助成費	40,630
	同窓会入会式費	516,190
	学部援助費	259,758
	事務援助費	9,758
	記念庭園管理費	100,000
	教育文化助成費	150,000
	事業活動費	1,724,085
	成果刊行費	817,320
	会議費	681,050
	事務費	225,715
	広報活動費	2,087,247
	印刷費	1,083,467
	通信費	1,003,780
	次年度繰越金	1,530,739
	合計	9,621,329

●事業活動基金

＜収入の部＞	科目	決算金額
	前年度繰越金	42,767,847
	利息	9,596
	合計	42,777,443

＜支出の部＞	科目	決算金額
	一般会計へ繰入	0
	貸金庫料	8,400
	次年度繰越金	42,769,043
	合計	42,777,443

●教育実践事業基金

＜収入の部＞	科目	決算金額
	前年度繰越金	4,030,643
	利息	1,501
	寄付金	200,000
	合計	4,232,144

＜支出の部＞	科目	決算金額
	教育実践論文顕彰費	390,000
	次年度繰越金	3,842,144
	合計	4,232,144

平成 26 年 6 月 7 日評議会で承認済み。

平成 25 年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式	● 役員変更状況確認	● 第 28 集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	7 監査 25 運営委員会 31 岐阜大学創立記念行事		● 第 28 集発刊 ● 第 29 集に係る教育研修課への依頼 28 第 28 集配布作業	
6	8 理事会・評議会の開催		● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	8 第 1 回部会 (担当分担, 細部打合せ)
7	26 拡大運営委員会		● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	6 教育学部・同窓会懇談会 (オープンキャンパス共催事業)	● 会費未納者再請求 ● 卒業生 I D パスワード配布		● 執筆者の原稿作成 ● 会報の原稿集め
9				● 印刷業者の選定
10	26 運営委員会	● 会員システム改修 (準会員対応へ)	● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など
11			● 審査依頼；都市教育長, 会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長	6 第 2 回部会(編集会議) ● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2 校)
12				● 同窓会報第 19 号発行・発送
1	9 拡大運営委員会		29 事業部会	
2			15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 教育学部同窓会入会式 及び卒業生との懇親会	● 準会員 I D パスワード配布	3 第二次審査会 13 最終審査会 ● 教育実践研究入賞論文集 - 第 28 集 - 発刊手続き開始	

学生の就職状況について

教育指導員 田口 和男

昭和43年度生物地学科(生物)卒業

1. 今年度(平成26年度)の岐阜大学教育学部(学部生, 院生, 既卒生)の受験状況

今年度の教員採用試験の一次試験の状況は以下の通りである。

学部生(岐阜県教員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
受験者	78人	20人	22人	12人	132人
合格者	64人	16人	15人	11人	106人
合格率	82.5%	80.0%	68.2%	91.7%	80.3%

学部生(愛知県教員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
受験者	29人	3人	6人	3人	41人
合格者	21人	3人	2人	0人	26人
合格率	72.4%	100%	33.3%	0.0%	63.4%

学部生(名古屋市教員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
受験者	12人	3人	1人	3人	17人
合格者	7人	2人	0人	1人	9人
合格率	58.3%	66.7%	0.0%	33.3%	52.9%

学部生(その他の県の教員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
受験者	10人	2人	1人	0人	13人
合格者	9人	2人	0人	0人	11人
合格率	90.0%	100%	0.0%	0.0%	84.6%

院生(岐阜県・愛知県の教員)

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計
受験者	11人	2人	6人	1人	20人
合格者	9人	2人	1人	1人	13人
合格率	81.8%	100%	16.7%	100%	65.0%

学部生は203名が教員に挑戦し(在籍者の81.2%), 152名(受験者の74.9%)が一次試験に合格した。

2. 多くの同窓会員に支えられて

教育学部生の教員採用試験に向けての取り組みは, 多くの岐阜大学教育学部の同窓生に支えられている。

進路相談室では, 今年度の4年生に対して, 8月の採用二次試験までの間に, 次のような取り組みを行っている。それらの取り組みでは, 多くの同窓会員の方に講師(指導者)をお願いしている。

また, 小学校の実技対策では, 音楽教育講座, 美術教育講座, 保健体育講座の先生や院生, 体操部員の方に指導をお願いしている。

- ・12月 教育講演会
- ・1月～4月 小学校学習指導要領解説と問題練習(全ての領域, 教科)
- ・1月～7月 学習会及び面接練習
- ・6月, 7月 集団模擬面接の面接官
- ・7月, 8月 各種二次試験対策



【小学校実技・体育】



【小学校実技・美術】



【中学校実技・理科】



【中学校実技・技術】



【グループワーク】



【集団討議】

学生・既卒者の 進路相談

教育学部本館1階の「進路相談室」で田口和男, 高橋和子の2名が進路相談を行っています。既卒者で教師を目指しておられる方はお気軽にご連絡下さい。(来年度の学習会については, 大学のホームページにも掲載します。)

月・火・水・木・金曜日の9:00～16:00 進路相談室: 058-293-2208

事業部会長 浅野 佳正
昭和46年度 数学科卒業

1. 30年の節目を迎える教育実践研究助成事業

おかげさまで平成25年度の「教育実践研究助成事業」も無事終了し、「入賞論文集-第29集-」を発刊することができました。入賞者は本誌12～13頁に掲載されている方々です。本事業は、小中学校の教職員の皆さんから、テーマをもって教育実践されたことを論文として応募していただき、市町村教育委員会・県教育委員会等の審査を経て、優れた作品を顕彰する事業です。本年度で30年の歴史を刻むこととなります。30年も続くと伝統的事業の域に達しているといってもよいと思います。

この事業が長きにわたって継続されている要因として、次のことが考えられます。

- ① 市町村教育委員会、県教育委員会、校長会の全面的なご支援をいただいていること
- ② 何回もの審査を経て賞が決定され、特に最終審査会は、都市及び町村教育長会長、小・中・小中の3名の校長会長、教育研修課研修企画監、各教育事務所長・教育支援課長、有識者等による厳正な審査が行われ、賞のステータスを高めていること
- ③ 現場の先生方に実践を書きまとめることの値打ちが理解され浸透してきていること

2. 平成25年度応募状況

平成25年度に応募状況は、表1表2のとおりでした。

＜表1＞職種別、年代別、性別応募人数（総計 1311名）

	校種	職 種 別										年 代 別					性 別		
		校 長	教 頭	主幹教諭	教 諭	養護教諭	栄養教諭	事務職員	講 師	A L T等	小 計	20 代	30 代	40 代	50 代	小 計	男 性	女 性	小 計
総計	小	8	4	1	719	16	3	5	27	0	783	383	203	127	70	783	336	447	783
	中	3	5	1	480	11	2	1	25	0	528	250	189	68	21	528	313	215	528
	計	11	9	2	1199	27	5	6	52	0	1311	633	392	195	91	1311	649	662	1311

＜表2＞領域別応募論文数（小779編、中529編 総計1308編）

	校種	教科										教科以外											
		国語	社会	算数・数学	理科	生活	音楽	図・美	技家	保体	英語	小計	道徳	特別活動	総合学習	外国語活動	学級経営	生徒指導	特別支援	健康安全	管理経営	その他	小計
総計	小	155	78	129	28	23	29	19	16	40	8	525	42	22	13	14	56	8	46	15	13	25	254
	中	54	55	77	46	0	21	15	31	43	62	404	13	19	8	1	31	2	16	14	8	13	125
	計	209	133	206	74	23	50	34	47	83	70	929	55	41	21	15	87	10	62	29	21	38	379

3. 最近の応募傾向

- (1) 平成 13 年度第 17 回の入賞者 70 名のうち総合的な学習をテーマにした論文は実に 17 点（約 4 分の 1）を数えました。いわゆる「ゆとり教育」が始まった頃、その目玉である総合的な学習の在り方の究明に多くの先生方が力を注がれたことが分かります。学力低下が危惧され始め、昨今は「脱ゆとり教育」に舵を切りました。こうした潮流を反映してか、数年前 60% 台であった教科研究の応募が、最近では 70% を超えるようになりました。
- (2) 20 代の先生方の応募がどんどん増えてきています。新規採用者が増えてきていることや、若い先生方の研修意欲の表れであろうと推察しています。

4. 審査会の報告

(1) 審査の経過

応募論文は次の過程を経て審査され、最優秀賞、優秀賞、優良賞、新人賞が決定しました。

①市町村教育委員会における審査→②各教育事務所における審査（一次審査）→③県教育委員会教育研修課における審査（H26.3.3 二次審査会）→④最終審査会（H26.3.13）

最終審査会審査員

学識経験者 2 名、教育研修課研修企画監、同課長補佐、各教育事務所長、各教育事務所教育支援課長、県都市教育長会長、町村教育長会長、県小中校長会長、県小校長会長、県中校長会長 等



【最終審査会の様子】

(2) 審査の観点

審査は次の 5 つの観点から厳正に行われました。

- ① 教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ② 教育現場に密着して、目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- ③ 児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④ 研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか
- ⑤ 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

(3) 最優秀賞の決定

上記の観点から 10 点の優秀賞が選ばれ、最終審査会で、更にその中で最も優れた論文「＝最優秀賞」が次のように決定しました。

岐阜市立長良東小学校 細江 達三教諭（理科）

■論文テーマ■

科学的な思考力・表現力をはぐくむ理科学習

～考察する力を身に付け、考えることの楽しさを味わう子の姿を求めて～

審査の中で、細江教諭の論文が優れている点として挙げられたことを列記します。

- ① 3 年間にわたる累積的、発展的な研究である。
- ② 他教科でも参考になる点が多い（汎用性）。
- ③ 意図的・計画的な研究で、仮説と研究内容が首尾一貫し説得力がある。
- ④ 理科を好きにしていける手立てが明確である。
- ⑤ 「考察」の指導が行き届き、実感を伴った理解や思考力・表現力を付ける指導が展開されている。

特に高く評価されたことは「汎用性がある」ということでした。細江教諭の実践には理科指導の範囲を超えて、様々な指導において参考になる点が多くあります。各学校、教育機関に配布されている入賞論文集 - 第 29 集 - を是非ご覧ください。



【入賞論文集 - 第 29 集 -】

5. おわりに

まずもって、県教育委員会、市町村教育委員会、校長会の全面的なご理解・ご支援と、岐阜県教職員互助会からの助成金支援に感謝申し上げます。また、応募から審査・表彰までのきっちりしたシステムの構築にご尽力いただいた同窓会の先輩の皆様に敬意を表します。

本同窓会の目的の 1 つに「教育文化の進展に寄与すること」があります。同じ子ども達（学級）でも指導する先生によって児童生徒の目の輝きや集中力が変わり、学級の凝集度が変わることは何度も目にしてきました。つまり、いくら施策が変わっても先生方自身が授業力・生徒指導力等を付けないと子どもに確かな学力や豊かな人間性を育てることはできません。岐阜県教育が進展するためには、先生方が教師力を付けることに喜びをもち、自信をもって教壇に立っていただくことが不可欠です。事業部会はこのことに少しでも貢献できるよう、今後も精一杯取り組んでいきたいと思っています。



第29回（平成25年度）岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）			
岐阜市立長良東小	細江 達三	科学的な思考力・表現力をはぐくむ理科学習 ～考察する力を身に付け、考えることの楽しさを味わう子の姿を求めて～	<理科>
優秀賞（9編）			
本巣市立弾正小	高木 寛之	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育む体育学習 ～「器械運動」の実践を通して～	<体育>
北方町立北方小	村瀬 明美	言語活動を通して、論理的に思考し、生き生きと表現する子どもをめざして ～仲間との交流による自己の学びの変容を明らかに～	<国語>
大垣市立綾里小	林 幸代	一人一人の教育的ニーズに応じた効果的な通級による指導の在り方 ～自分のよさに気付いて伸ばす教室を目指して～	<特別支援教育>
揖斐川町立坂内小	後藤 靖弘	郷土坂内を愛し、たくましく「ひとりだち」のできる児童生徒をめざして ～自学を支える「見守り型の指導・援助」に徹し、自身の力を高め続ける子を育てる社会科学習の在り方～	<社会>
関市立上之保小	後藤 正行	「自己を見つめ、仲間とともによりよく生きようとする子」をめざして ～自己の変容を自覚し、たくましく生きようとする力を育む道徳の時間の実践～	<道徳>
東白川村立東白川中	井上 誠	よりよい動きを求め続けていく生徒が育つ保健体育学習 ～課題解決能力を高め、「分かる」を「できる」につなぐ見合い・教え合い活動の在り方と追究～	<保健体育>
多治見市立笠原小	土松 真理子	自他の大切さを認め合いながら、主体的に活動する児童の育成	<学級経営>
瑞浪市立日吉小	加藤 理恵	実感を伴った理解を図る理科学習の創造 ～「魚のたんじょう」の単元を通して～	<理科>
高山市立北小	丸山 洋範	考察指導を通して、科学的な見方や考え方を高め、確かな力が身に付いたと実感できる理科授業の創造 ～仲間学習で見つけたきまりを、再検証で実感したり、確かタイムで活用したりする活動を通して～	<理科>
優良賞（40編）			
岐阜市立長良西小	安井 春美	自らよりよいコミュニケーションを求め続ける子 ～よく考える授業の創造～	<小学校英語>
岐阜市立長良東小	澤村 秀彦	個の科学的な見方や考え方が育つ理科学習の創造 ～全員が「できる・分かる」と言える学習をめざして～	<理科>
岐阜市立長良東小	森 哲也	記録向上を目指して 仲間と共に思いきり運動に取り組む子 ～低学年走・跳の運動遊び、中学年走・跳の運動の実践を通して～	<体育>
岐阜市立長良中	富山 哲成	自分の考えを形成する力を育む「読むこと」の学習 ～単元を貫く「批評的に読む」言語活動を通して～	<国語>
岐阜市立境川中	深尾 洋	自発的・自治的に活動に取り組むことができる生徒を育てる学級経営 ～学級自治が成り立つ学級を目指して～	<学級経営>
羽島市立竹鼻小	沼辺 あゆみ	仲間とともに練り合いながら、自ら読み深めることに資する言語活動の工夫 ～目的意識を大切に単元を貫く言語活動の工夫とそれを支える指導・援助の在り方を通して～	<国語>
羽島市立羽島中	中島 知世	一人一人が大事にされる温かい学級づくりを目指して	<学級経営>
各務原市立稲羽西小	中島 依世	「話したい！聞きたい！」気持ちを高め、伝え合う楽しさを実感できる指導の在り方 ～国語科「話すこと・聞くこと」単元を通して～	<国語>
各務原市立鶴沼中	足立 美穂	古典のおもしろさを実感し、伝統的な言語文化への興味・関心を高める指導の在り方 ～小学校から中学校へのつながりを考える～	<国語>
各務原市立中央中	加藤 悠介	よりよい社会形成に向けた、社会参画意識を高める公民学習 ～主体的な学びのもと、学ぶ意義を見出させる指導を通して～	<社会>
山県市立桜尾小	藤井 有子	自尊感情を高める支援の工夫 ～成功経験・達成経験を得られる支援を目指して～	<特別支援教育>
瑞穂市立穂積中	中村 輝美	「共生 自立」それは「人とかかわる力」から ～主体的な活動を生み出す「作業学習」を核として～	<特別支援教育>
岐南町立東小	榊井 奈津子	社会的な見方や考え方を成長させ、実践力のある子を育てる社会科学習	<社会>
大垣市立興文小	梅村 友規	アイテムを活用し、自分の力で問題解決できる児童の育成 ～思考力・判断力・表現力を高める算数授業の創造～	<算数>
大垣市立江東小	藤林 純子	実感を伴った理解を図り、科学的な思考を高める指導の在り方 ～「分かったつもり」から「納得へ」、生きる力を求めて～	<理科>
大垣市立牧田小	押谷 里美	仲間とともに練り合いながら、自分の思いを生き生きと表現する子の育成 ～「言語活動の充実」を重視した「読むこと」の学習を通して～	<国語>
垂井町立垂井小	山田 美江	子ども一人一人が学力を習得・活用し向上するための指導の在り方の究明	<算数>
垂井町立垂井小	渡邊 輝久	運動技能の向上を目指す学習のあり方	<体育>
垂井町立東小	中村 薫	仲間と関わり、自分の思いを進んで表現できる子をめざして	<特別支援教育>
輪之内町立輪之内中	櫻井 純子	書き手や話し手の意図を的確にとらえ、豊かに読むことの楽しさを実感できる学習活動の工夫 ～付けたい力を明確にし、確か豊かに読むための手立てを工夫した授業づくり～	<国語>
揖斐川町立坂内小	小澤 飛鳥	自ら思考・判断・表現し、よりよい生き方を求める子の育成 ～飛び複式学級のよさを生かし、道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の在り方～	<道徳>
関市立桜ヶ丘小	山田 真樹	自分をコントロールする力をつけ、よりよく生きようとする子を目指して ～「応用行動分析」を導入した、虐待を受けたA児の社会性の育成～	<特別支援教育>

美濃市立美濃中	中 根 信 也	自ら意欲的に学習する生徒の育成 ～技術科における課題追求の視点・個に応じた手立ての明確化～	<技術・家庭>
郡上市立白鳥小	藤 村 志 帆	一人一人の自己肯定感を高める学級づくり ～仲間と関わり合う指導を通して～	<学級経営>
郡上市立大中小	宮 川 拓 也	仲間との関わり合いを通して、仲間のよさに気づき、 進んでコミュニケーションに取り組もうとする児童の育成	<外国語活動>
美濃加茂市立太田小	松 岡 恵 介	社会的事象の意味を仲間とともに、進んで探究する子の育成 ～子どもが自らかかわって高まる社会科指導のあり方～	<社会>
可児市立旭小	安 藤 み ほ	自分自身のよさや成長に気づき、意欲を持って生活できる子の育成 ～気付きの質を高めるための言語活動の充実を通して～	<生活>
可児市立広見小	高 木 恵 子	外国語で伝え合う喜びを実感できる外国語活動の指導 ～学習到達目標を位置づけた指導計画とリアルコミュニケーションを生み出す言語活動の工夫を通して～	<外国語活動>
御嵩町立上之郷中	奥 村 哲 郎	基盤となる基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、 一人一人の科学的な思考力・表現力を高める理科指導の在り方 ～3年生「酸、アルカリとイオン」「エネルギーと仕事」での実践を通して～	<理科>
多治見市立養正小	安 田 孔 美	仲間との関わりの中で 主体的に活動する子どもをめざして ～みんなが伸びる みんなと伸びる授業づくりの一考察～	<特別支援教育>
多治見市立精華小	保 母 征 之	平和を願う日本人としての自覚をもつことができる子を育てる社会科学習 ～社会的な見方や考え方を高める指導・支援の工夫を通して～	<社会>
瑞浪市立瑞浪小	久 野 智 治	適切に表現し正確に理解する能力を育成する国語科学習の創造 ～教科担任による国語科の学習で、本質的な楽しさを味わう～	<国語>
恵那市立大井小	遠 山 意 保 子	音読を通してA子に自信をもたせるための自立活動の在り方 ～個に応じた構音指導と認知特性に応じた支援の工夫～	<特別支援教育>
恵那市立岩呂小	山 田 美 佐 恵	対象や自分自身とのかかわりを強め、気付きの質を高める学習活動の在り方 ～1年生生活科の学習を通して～	<生活>
中津川市立山口小	後 藤 美 穂	幼稚園から小学校へ子どもの学びをつなぐための連携のあり方	<学級経営>
中津川市立付知中	間 宮 弘 介	まとまりのある正しい英文で自己表現できる生徒 ～3年生「書くこと」領域2単元での実践を通して～	<外国語>
高山市立北小	朝 田 佳 菜 絵	社会的事象の意味を意欲的に追究し、社会好きな子が育つ授業を目指して	<社会>
高山市立山王小	山 平 玲 子	生徒指導・教育相談・特別支援教育をデザインする ～発達障害のある児童の支援を工夫し、支援の輪を広げて、誰にもやる気を出させる生徒指導～	<生徒指導>
高山市立東山中	齋 藤 裕 輝	「ものの見方や考え方」を広げ、「自分の考え」がもてる生徒を育む戦争文学教材における国語科の授業づくり ～「自分の考えの形成」を重点とした指導を通して～	<国語>
飛騨市立古川中	中 島 英 人	身に付けた力を実感できる国語科指導のあり方	<国語>

新人賞 (20 編)			
各務原市立蘇原第一小	栞 原 秀 雄	表現することを通して一人一人に力をつける算数科の授業を目指して ～算数って楽しいな～	<算数>
瑞穂市立本田小	久 保 田 大 作	「わかる」「できる」から「できごと」を理解し、判断する子の育成	<社会>
本巣市立根尾中	山 川 里 美	積極的にコミュニケーションを図り、確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～少人数を生かした生徒主体の英語の授業を通して～	<英語>
岐南町立西小	辻 直 孝	居場所と絆を育み、子どもの願いが輝く学級づくり ～仲間との関わり合いから、自分たちの学級を誇りに思える児童との歩み～	<学級経営>
北方町立北方小	吉 田 奈 央	論理的に思考し、生き生きと表現する力を育てる国語の学習 ～3つの実践を通じた思考の深まりと実践～	<国語>
大垣市立東小	小 倉 啓 史	見通しをもって、主体的に問題解決ができる理科学習指導の在り方 ～「学びのキーワード」を活用して～	<理科>
大垣市立西小	川 瀬 美 紀	「学び方」が分かり、意欲的に社会科に取り組む児童の育成 ～学ぶ楽しさを味わえる社会科の授業を目指して～	<社会>
輪之内町立大藪小	坂 本 望	確かな考えをもち、仲間と共に学び合い「わかる・できる」喜びを味わえる子の育成 ～自分の考えをもち、筋道立てて表現する授業づくりを通して～	<算数>
垂井町立府中小	冨 田 薫	学校事務の効率化に向けた取り組み ～学校職員の1人として、事務職員ができること～	<学校事務>
関市立金竜小	野 田 幸 世	言葉に着目して、主体的に読むことができる子の育成を目指して ～『読み取りの技』を生かして～	<国語>
郡上市立八幡西中	山 田 純 士 朗	仲間と共により良い動きを身につける体育学習 ～基本動作を大切に剣道の指導～	<保健体育>
美濃加茂市立東中	坪 屋 真 世	思考力、表現力を育む授業の創造 ～モデルを使って考え、伝えることを通して～	<理科>
白川町立佐見小	橋 本 怜 実	児童の豊かな育ちを支援する事務職員の役割 ～事務力・組織力・コミュニケーション力を高めるために～	<学校事務>
御嵩町立御嵩小	山 北 亮 太	最高学年として意欲に満ちた学校生活を送る児童の育成 ～PDCAサイクルを大切に実践(日記指導を通して)～	<学級経営>
瑞浪市立瑞浪小	永 治 優 佳	自分でできることが増えていく喜びを感じ、よりよい生活のために家庭で実践する子をめざして	<家庭>
瑞浪市立陶小	森 孝 太	物語教材における文章理解の力をつける国語科指導の在り方 ～「読み取り」と「練り合い」の場を通して～	<国語>
恵那市立三郷小	北 原 章 大	表現の効果にこだわり、豊かに読む力が身に付く国語科学習 ～協同学習を導入した読み取り指導について～	<国語>
中津川市立落合小	毛 利 陽 子	「社会的事象の意味を追究し、自らの生き方を作り出す子」の育成	<社会>
高山市立東小	堀 部 奈 菜	一人一人の教育的ニーズに応じた通常学級での支援の在り方 ～的確な実態把握と自己肯定感を高める指導方法や環境づくりの工夫を通して～	<特別支援教育>
高山市立北小	松 嶋 杏 奈	必然性を感じて学習に励み、価値ある仲間学びを通して、自分の確かな考えを話せる子を目指して	<国語>

「教育学部同窓生

平成26年6月7日(土)15時より、岐阜大学教育学部140周年記念行事「教育学部同窓生の集い」が岐阜大学講堂において開催されました。来賓として、森脇久隆学長、横山正樹理事、江馬諭理事にご列席を賜り、120名をこえる参加者とともに岐阜大学教育学部140周年のお祝いの会は無事終了いたしました。ご多忙の中、ご出席いただきました同窓生の皆様には心よりお礼申し上げます。

①主催者挨拶

本会の主催者である後藤忠喜同窓会会長と池谷尚剛教育学部長より、出席者の皆様に対し、挨拶がありました。



②来賓祝辞・紹介

森脇学長より祝辞が述べられ、つづいて来賓の紹介が行われました。



③岐阜大学教育学部 140年の歴史

同窓会幹事である教育学部の今井亜湖准教授による、岐阜大学教育学部140年の歴史を10分でふりかえる発表が行われました。



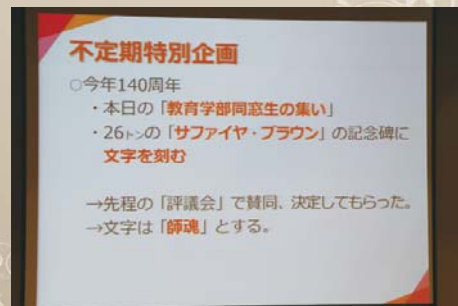
④岐阜大学教育学部の 紹介

池谷教育学部長による、岐阜大学教育学部の紹介が行われました。



⑤同窓会の活動紹介

後藤同窓会長による、教育学部同窓会の活動紹介が行われました。



の集い」開催報告

⑥ミニコンサート

教育学部同窓生の集いの最後は、教育学部音楽教育講座に在籍する学生と朝田健教授夫妻によるミニコンサートが行われました。このコンサートは松永洋介教授のコーディネートにより実現しました。松永教授にはこの場を借りてお礼申し上げます。



音楽教育講座の学生4名による
L.アンダーソン作
「トランペット吹きの日」の演奏



音楽教育講座の学生2名による
B.マルチェロ作
「ソナタ第1番よりI, II」の演奏



朝田健教授夫妻と音楽教育講座学生による
A.ドヴォルザーク作
「四つの伝説よりI, II」および
L.ハマーシュタイン作
「ピノキオより『星に願いを』」の演奏

⑦閉会の挨拶



閉会の挨拶は、野村武宏同窓会副会長が行いました。



教育学部同窓生の集いの司会は、同窓会幹事である総合情報メディアセンターの加藤直樹教授が務めました。

記念品

記念式典の参加者には、教育学部美術教育講座3年の永井閑さんがデザインしたトートバッグと、美術教育講座の山本政幸准教授がロゴのデザインを行ったボールペンが記念品として配られました。永井さんのトートバッグのデザインは9つの教科を視覚表現のみで表したもので、教育学部同窓会にふさわしい記念品となりました。



記念式典のあと、岐阜大学生協第二食堂にて記念パーティーが開催されました。司会は田口和男同窓会副会長が務め、主催者挨拶を後藤同窓会長、閉会の挨拶を小森正子同窓会副会長が行いました。同窓生をはじめ、記念式典に出席して下さった横山理事、江馬理事、そして教育学部の教員が一堂に会する賑やかなパーティーとなりました。会場には教育学部の歴史を紹介する写真が掲示されました。その一部を次ページで紹介します。

岐阜大学教育学部 140 周年 記念アルバム

岐阜県師範学校・岐阜師範学校・岐阜青年師範学校



岐阜県師範学校



師範学校図画授業風景



師範学校理科授業風景



岐阜師範学校（学芸学部）本館



岐阜青年師範学校

岐阜県女子師範学校



岐阜大学教育学部（長良時代）



教育学部（長良時代）全景



教育学部本館（長良）



芸術教棟



自然科学教棟



技術・職業教棟



保健体育教棟



プール



体育館



武道場



家政教棟



望峰寮



長良生協

岐阜大学教育学部（柳戸キャンパス移転当時）



柳戸キャンパス全景



教育学部本館



保健体育棟



教育学部本館



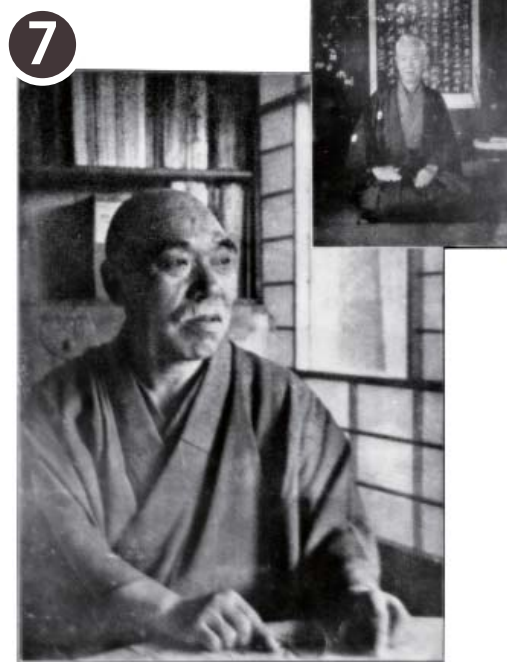
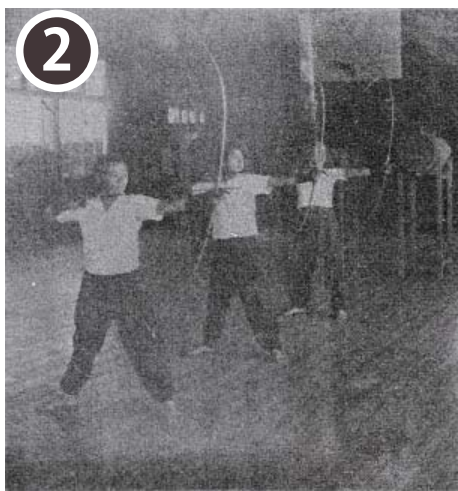
音楽棟



美術・技術棟

岐阜大学教育学部 140 周年記念事業 師範

同窓会事務局が教育学部本館3階から教育学部技術棟2階へ引っ越しを行った際、師範学校時代に製作されたと思われる版木が見つかりました。最初は版木であることが分からず、瀬古写真館の社長さんが版木であること、そしてこれは貴重なものであることを教えてくれました。その後、教育学部郷土博物館の資料整理を行っている地域科学部地域資料・情報センターの中尾喜代美さんの協力を得て、専門の業者によってデジタル化をしていただきました。今回デジタル化した版木のすべてをご紹介します。



師範学校時代に製作された版木のデジタル化



平成26年6月7日に、教育学部同窓生の集いに参加された師範学校同窓生の方に版木の画像を見させていただきましたが、すべての写真の同定にまで至りませんでした。かなり前の師範学校時代の写真であることが分かりました。

同窓生の皆様で版木に映っている①、②、⑤～⑮の画像がお分かりの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務室までご一報いただけないでしょうか。ご協力よろしくお願いします。

岐阜大学教育学部の ルーツを探る

今井 亜湖, 安田 和夫

平成8年度 技術職業学科卒 昭和53年度 治療教育卒

岐阜大学教育学部の起源は、明治6年12月に大垣藩庁跡を校舎にし、開設された「師範研習学校」です。初年度は75名が入学し、興文第一、第二、第三、第四小学校を附属小学校に指定し、実地授業をとおして小学校の教育方法を学び、4か月～6か月の修業期間を経て卒業させていたと記録には残っています。

6月7日に開催された「教育学部同窓生の集い」の「岐阜大学教育学部140年の歴史」において、私が師範研習学校についてお話をいただいた中で、師範研習学校が現在の大垣城のあたりに建っていたことは分かったが、それ以上の詳しい場所は調査することができなかったとお話したところ、話を聞いてくださっていた同窓生の安田和夫さんが、師範研習学校の所在地を調べてくださいました。その結果を皆さんにもご紹介させていただきます。

大垣市が発行している「大垣市史 通史編 近現代」において、師範研習学校の歴史は次のように記されています。

明治6年10月 「岐阜県仮師範学校設置伺」を文部省に提出

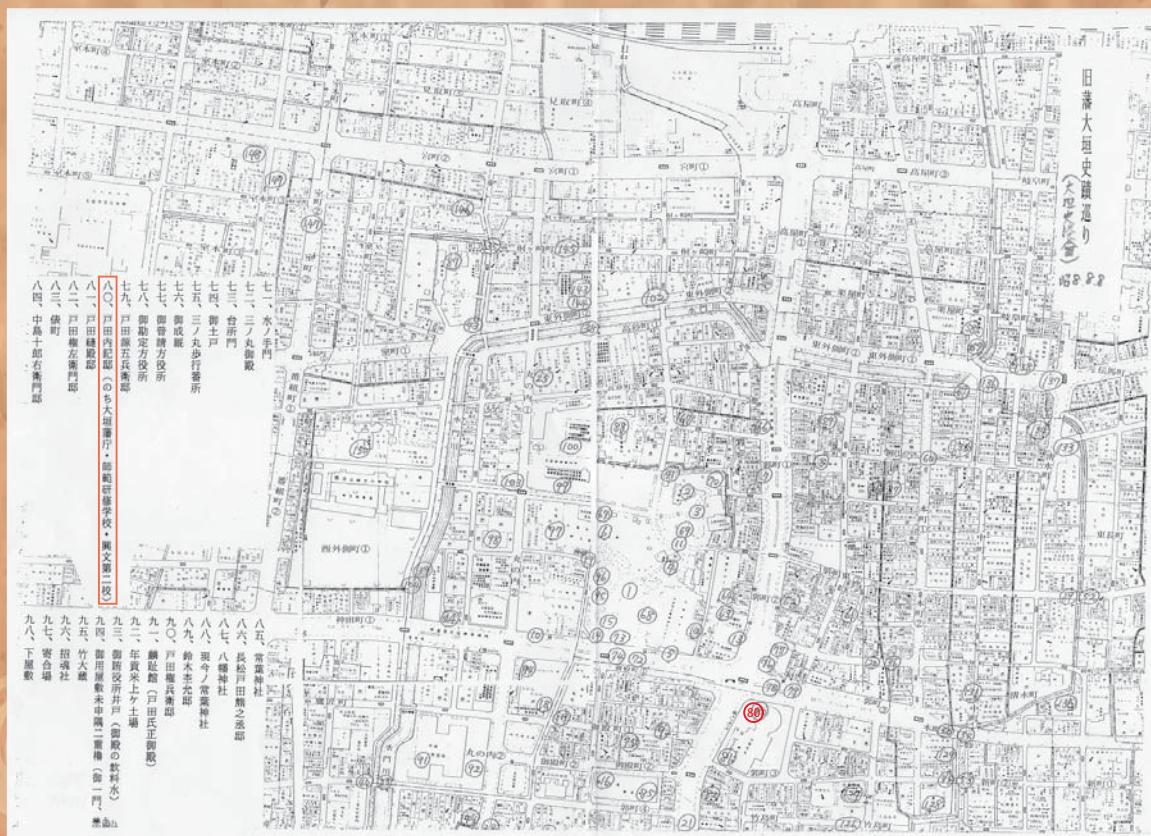
明治6年12月 安八郡大垣町旧大垣藩庁跡を校舎として仮開校「師範研習学校」

明治8年2月 文部省の許可を得て、校名を岐阜県師範学校と改称

明治10年5月 厚見郡今泉村(現岐阜市司町)にある県庁に近接する場所に新築移転

この師範研習学校について、太田謹(師範研習学校初代校長)が、回想「岐阜県師範学校創始」の中で「大垣城中にあり、旧藩士某(戸田内記)の邸宅を補修改造して之に充てたるものなれば、古屋なれども宏壮の屋舎にし、之に加ふるにペンキ塗・硝子障子等にて、兎も角も洋式学校の体裁装飾を施しければ、一時大に人の耳目を新にせり」と記しており、戸田内記宅を調べてみました。

大垣市図書館で、戸田内記の邸宅は、確かに、大垣城中にあり、現在の郭町になることが当時の復元地図から判明し、さらに、「旧藩大垣史蹟巡り」を参考に、現在の地図におとした資料から「大垣共立銀行本店」(大垣市郭町3丁目98)辺りとわかりました。



「昔々唄ブ舊藩大垣史蹟巡り(大垣史談会)昭8.8.8」より 清水進氏作成

記念碑に文字を刻む

教育学部跡地(現岐阜市の長良公園)に
建立された記念碑に文字を刻む

同窓会長 後藤 忠喜
昭和 38 年度 数学科卒業

2004年9月1日、岐阜大学教育学部創立130周年を記念し、かつて教育学部があった長良の地(現長良公園)に「跡地記念碑」が建立された。2004年8月28日、現地で盛大な記念式典が開催され、「除幕式」も行われた。同窓会事業活動基金から460万円程が支出されている。重さ26トンの「インド産；サファイアブラウンの巨石」と、右横に沿革史を綴った石碑(フィンランド産 エスコブラウン)の二体で構成されている。沿革史は辻太氏の書によるものである。

ここに至るまでには、当時の山口正和会長はじめ同窓会役員の皆様の大変なご努力・ご苦勞がおりだったことが十分拝察できます。

ただ、この「サファイアブラウンの巨石」には「字」が彫ってありません。巨石に文字を刻むかどうかについても、記念碑建立当時随分検討されたことと思われます。

公園の近くに住む私のように、毎日石を見ている者にとって、何か、何かインパクトがほしい。巨石に文字が彫ってあったら、公園を訪れる人に今ひとつ関心を持って見てもらえるように思うのです。

当時の役員の方にもいろいろご意見をお聞きしながら、「巨石に文字を刻む」という方向で検討を加えてきました。運営委員会に提案・検討、更に拡大運営委員会に提案・検討を加え、理事会そして評議会で次の内容を承認いただき、刻字に着手しました。

- ◎記念碑に文字を刻む
- ◎岐阜大学教育学部の跡地であることを、静かに、爽やかに主張できる文字
- ◎岐阜県教育の総本山の跡地としての「存在感」がある文字
- ◎文字は「師魂」とする。50cm角の2文字
- ◎どなたかに字をお願いできると良いのだが、お一人に絞るのが大変難しく、業者とも相談の上、既成の文字を使用する
- ◎費用は一般会計から支出し、「140周年記念事業」として実施する

刻字までの流れ

6月30日	岐阜市「公園整備課」と打ち合わせ・・・土地借用について再申請
7月3日	岐阜市指令建公第307号で、細江茂光市長より「公園占用許可」がおりる。
8月25日	長良公園の現場で、業者と刻字について細部の打ち合わせ。 (当記念碑沿革史刻字業者の「関ヶ原アトリエKK」に依頼)
9月22日	刻字準備作業、文字転写など。
9月24～26日	文字彫り作業
9月29日	洗浄及び白塗り塗装、清掃・・・完了



私たちの母校、岐阜大学学芸学部・教育学部跡地(長良の地)は、現在緑一杯の静かで爽やかな「長良公園」として地元の方々を中心に、多くの方々の憩いの場として利用されています。40本ほどありますメタセコイアの巨木のみがかつてのまま残されています。

近くへお越しの節には是非公園へ寄ってみてください。記念碑は公園の南西の位置に南向きに設置されています。こちらへも是非一度お出かけいただけるとありがたいです。(駐車場は公園北側にあります)



『笑顔』と『つながり』を大切に

関市立金竜小学校 野田 幸世

平成23年度 生涯教育課程卒業

『きらきらえがお』。これは1年目、初めて担任をもった時の学級目標です。憧れの教壇に立たせていただいた4月。期待と同時に、分からないことも分からない状態で、上手くいかないことの連続でした。うつむきそうになったときには、放課後の暗くなった教室で何度もこの学級目標を見上げたことを、今でも鮮明に覚えています。授業中に見せる子どもたちの「できた!」という時のきらきらした笑顔や、友だちによいことを見つけで名前を言ってもらった時のほかにんだ笑顔、ドッジボールで勝ったときの得意げな笑顔。たくさん笑顔が浮かんで来て、私に大きなパワーをくれました。また、自分自身も笑顔でいるように心がけることで、自然と「もう一度諦めずにやってみよう」という勇気がわいてきました。今、振り返ると、大変だったことほど私を成長させてくれたチャンスだったと思います。

そして、教員生活も早3年目になりました。昨年は4年生、今年は5年生の38人の子どもたちの担任をしています。この2年間を通して出会うことができた子どもたちのどんな笑顔も素敵でしたが、その中でも、仲間と一つのことに取り組むなどして、時には困難にぶつかりながらも、その困難を乗り越えてやりきった時だけにみせる、心からの笑顔は格別だと感じます。そんな、心からの笑顔を増やしたいという私の願いと、子どもたちの願いを合わせて決めた、学級目標『つながり合う仲間』に向かって、今年は頑張っています。

6月に行われた高学年ドッジボール大会では、練習を始めた当初、私の学級は試合をしても負けてばかりでした。リーダーを中心に声をかけあって練習を計画したり、作戦を考えたりと一所懸命取り組んでいましたが、なかなか結果が出ず、子どもたちの表情はどんどん曇っていきました。そこで私は、毎日の日記に綴られた一人一人の想いを紹介したり、頑張っている子のよさを価値づけたりするなどして、子どもたち同士がつながることができるように手助けをすることを心がけました。そして迎えた大会当日は、決勝戦まで勝ち上がることができ、試合が終わった後には、子どもたちの喜びあう笑顔や健闘を讃えあう笑顔が広がり、その笑顔は充実感に満ち溢れていて、本当に輝いてみえました。また、学級会での振り返りでも「○○さんの応援のおかげで…」という仲間の頑張りを認める具体的な姿がたくさん出てきました。そしてドッジボール大会が終わった今でも、男女関係なく誘いあいドッジボールをしている姿や、仲間を大切にし、仲間のために進んで行動する姿を見ると、この大会を通してできた子どもたちのつながりの強さを感じることができて、とても嬉しく思います。

また、いつも近くで支えてくださる校内の先生方や家族との『つながり』。温かく見守ってくださる保護者の方との『つながり』。共に切磋琢磨しながら、同じ教員としての道を歩む仲間との『つながり』。このように、私もたくさんの方々の温かい輪の中で、日々学ばせていただいていることに、感謝の気持ちでいっぱいです。この想いを忘れずに、今、目の前にいる子どもたちが笑顔になれるように、できることを精一杯やり続ける教師でありたいと思います。



生徒の数だけ指導方法はある

御嵩町立上之郷中学校 奥村 哲郎

平成6年度 物理化学科化学卒業

本校では、生徒、保護者の願いとともに第2次岐阜教育ビジョンを真摯に受け止め、生徒の更なる学力の向上をめざし、全職員で指導改善に取り組んでいます。

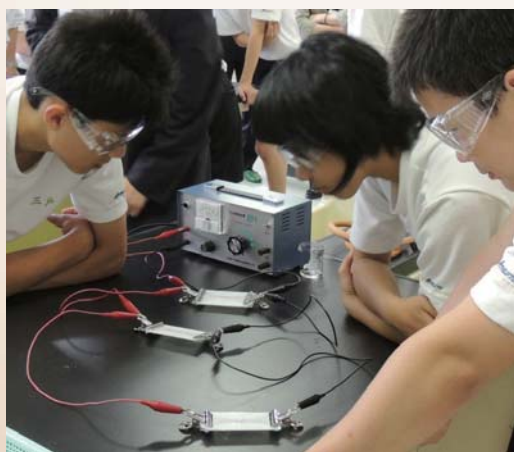
例えば、私が教科担任をする理科では、次のように取り組んでいます。

まずは生徒理解、次に構想や計画の立案です。これから学習する単元において必要とされる知識・技能や学び方の定着具合、仲間や学習環境に対するかかわり方、生活経験などについて、授業での生徒観察、ノート記述、事前アンケートなどから学級全体の傾向をつかむとともに、その要因はどこにあるかを分析して、指導の改善の方向を決め、単元構想や指導計画を立案しています。その際、単元を通して基礎的・基本的な知識・技能が段階的に習得できるよう、各時間の学習内容や学習活動を工夫し、位置付けていきます。また単元後半には、単元の核となる授業として、身に付けた知識・技能を活用し思考力・判断力・表現力を高める授業を位置付けています。そこでは、観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動や、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動に重点をおいて指導しています。

単位時間では、ねらいを達成していくために各学習過程で、教師が見とどける内容と方法を具体化します。そして、見とどけを充たしていない生徒には、次の学習過程に進むための問いかけや助言といった指導・援助を行います。見とどけを充たしている生徒には、さらに力を伸ばし、価値を広める意図的指名や価値付けといった指導・援助を行います。こういった個に応じた指導・援助によって、一人一人の課題意識に応じた学習が成立するようになりました。生徒の実態によっては、授業だけではなく、家庭での学習の仕方や計画の立て方についても継続的に指導します。そして必要に応じて、保護者に協力をお願いする場合があります。

これらの指導の結果、生徒がどのように変容したのかを検証し、次の単元での実践に生かしています。教師による評価だけでなく、生徒自身がどう感じているかも定期的にアンケートを行い参考にします。例えば、「授業が分かる」と「理科が得意」や「授業が楽しい」は、生徒によっては必ずしも一致しません。授業は分かるけれど不得意な生徒、授業は分かるけれど楽しくない生徒など、様々です。家庭学習の在り方や適度な抵抗感のある課題設定など、まだまだ改善の余地がありそうです。

生徒は、「分かる」ようになったり、「楽しい」と感じるようになったりすると、現状の自身の学力に満足しなくなり、自己をより厳しい目で見つめるようになることも分かってきました。一人一人の生徒が抱えている、学習に対する願いや不安を、希望や自信に変えていけるよう、私自身も今の指導に満足することなく、実践を積み重ねてまいります。



米寿記念同窓会

岐阜師範昭和20年卒業生

【二十年会】

正確にいうと岐阜師範学校男子部昭和20年9月卒業生の同窓会である。

女子部は岐阜県女子師範学校があった加納にのこっていた。昭和20年というのは、先の大戦の終戦の年である。なぜ9月卒業かというと、戦争のために半年間の繰り上げ卒業だった時代だったからである。昭和18年度から3年間続いた繰り上げ卒業は、私たちが最後だった。日本の長い学校制度の中でも、この制度はこの時だけだったと思う。「二十年会」という言葉の中には、昭和20年卒業生同窓会というだけでなく、私たちにはいろいろの思いがこもっているのである。

【師範学校生活】

師範学校は全寮生活から始まった。新入生は全員入寮だった。いまの岐山高校の北にあった望峰寮から長良教室への通学だった。戦争中だったので、勉強よりも勤労奉仕の時代だったが、師範学校の先生たちの情熱はすごかった。教育学を始め、教員の基本とも言えるべき音楽・美術・体育・農業などの先生たちにたたきこまれた師魂は私どもの教員生活を通しての支えであり、人生の指標でもあった。

卒業学年3年生の4月、つまり昭和20年の4月は学徒出陣だった。師範学校生徒といえども兵役猶予がなくなって、生徒の身分のまま軍隊へ行くことになった。19才の春だった。学校として初めてのことであったので全校あげて見送っていただいたが、学校としても最初で最後のことだった。8月の終戦で、9月卒業だった。小学校入学の頃満州事変が始まり、師範学校卒業までの十三年半は全くの戦争時代だった。それが初任校へ着任した日から民主教育の担い手となったのである。苦難の教員生活が始まったのである。

【同窓会】

だから私ども同窓会はただ同級生だったというだけではなくて、生死を分け合った戦友といってもいいほどの絆にむすばれていると言ってもいいほどのつながりがある。

もうこれが最後だといいながら、還暦・古希・喜寿・傘寿・米寿と記念同窓会を続けてきたが、卒業生173名中現員60名、今回の米寿記念会には21名が集まった。よくぞこんなに集まったと感動の一日だった。写真を見ると年相応だが、気迫には満ちていた。平成25年4月24日 岐阜市16プラザ ラ・ローゼプロヴァンスで開催。

超高齢化社会とはいうものの生きていることへの感謝感謝の集いだった。

(文責 西脇成紀)



退職された教員のご紹介

平成 26 年 3 月 31 日をもって、
退職された教員は次のとおりです。

江 馬 諭	教授	技術教育 備考：本年 4 月から本学理事 (教学・附属学校担当) 副学長
小林 月子	教授	社会科教育 (哲学)
高柳 理恵	助教	音楽教育
橘 良 治	教授	教職大学院
林 幸 克	准教授	教職大学院
日比 光治	准教授	教職大学院
宮本 正一	教授	学校教育 (心理学)
和田出 秀光	助教	数学教育

(50 音順)

新しく着任された教員のご紹介

平成 26 年 4 月 1 日付けで、
着任された教員は次の通りです。

石渡 奈緒美	助教	家政教育
板倉 憲政	助教	学校教育 (心理)
田澤 晴子	准教授	社会科 (史学)
田中 伸	准教授	社会科 (法経)
田村 知子	准教授	教職実践開発専攻 (授業開発コース)
日比 暁	特任教授	教職実践開発専攻
吉澤 寛之	准教授	教職実践開発専攻 (教育臨床実践コース)
吉村 嘉文	准教授	教職実践開発専攻 (授業開発コース)

(50 音順)

各学科同窓会の活動

本年度より、事務局より原稿依頼を行い、
原稿が届いた学科のみ掲載しています。

国語 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 小島 光太郎)

学科として定期的な活動を行っておらず、関係の皆様にはご迷惑をおかけしております。
事務局として、同窓会名簿作成の業務を進めていきたいと考えています。
今後ともよろしくお願い致します。

史学 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 高木 良太)

[期日] 平成 26 年 8 月 16 日 (土)

[場所] グランベール岐阜

[内容]

- ① 総会
会長挨拶、事業報告・計画、会計報告
- ② 講演
「最近の発掘調査から」
講師 成瀬 正勝先生 (文化財保護センター調査課課長)
- ③ 懇親会



地理 (事務局 海津市立海西小学校 坂口 亨)

(1) 第 40 回同窓会「濃飛の集い」

第 46 回生 (代表 高木 志保) が担当

【期日】 平成 26 年 8 月 2 日 (土) 13 時 30 分～

【会場】 美濃加茂市「みのかも文化の森」

① 総会 (13:30～14:15)

- ・開会あいさつ
- ・実行委員 (46 回生) あいさつ
- ・恩師の先生方のお話
- ・参加者の紹介
- ・諸連絡
- ・閉会あいさつ

② 講演会 (14:20～16:00)

演題 「美濃加茂市の河岸段丘と湧水」

講師 岐阜県立加茂高等学校 木澤 慶和様

- ・美濃加茂市には、木曾川・飛騨川が形成した河岸段丘が発達していること。また、その段丘崖には湧水している地帯があり、変容していることを紹介していただいたり、巡検に出かけて現場で説明をしていただいたりしてとても有意義な会となった。

(2) 次回活動予定 平成 27 年 8 月 1 日 (土)

第 47 回生が担当 (代表未定)



誌面スペースの都合上、掲載学科順不同とさせていただきます。

数学（事務局 岐阜市立長西小学校 森 誠）

(1) 総会

隔年の開催となっており、本年度は開催なし
平成27年5月に開催を計画している。

(2) 総会が行われない年度に夏季研究会を行うこととしており、本年度は飛騨地区で開催した。

【開催日】平成26年8月9日（土）

【会 場】高山市内

【研究会】発表者 高山市立三枝小 日比野 能之 教諭
大垣市立興文小 川出 恵美 教諭
高山市立東山中 横山 仁史 教諭
高山市立日枝中 畑中 裕史 教諭

当日は、約20名の会員の方と共に充実した研究会を行った。
会の終了後、会員同士の親睦を深めるために懇親会を行った。



(3) 本年度の活動計画

○同窓会名簿「わしょう」の改訂

本年度は、同窓会名簿の発行の年度ではないが、年度代表者に連絡をとり、毎年の確認作業を行った。

○数学科卒業予定者に対するの説明会

数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。（平成27年2月予定）

○来年度以降の計画立案

運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。（平成27年3月予定）

(4) その他

○同窓会「わしょう」の作成に関わって

住所変更がある場合は、各年度の代表者に連絡をお願いします。

○平成27年5月に27・28年度総会を予定しております。

ぜひ多くの会員様にご参会いただきますようお願いします。

物理（事務局 郡上市立大中小学校 奥田 好紀）

学科として、定期的な活動は行っておりませんが、学年ごとに連携を深めています。

各学年の情報等、事務局までお知らせいただけるとありがたいです。また、同窓会名簿の修正や情報等につきましても、お知らせください。よろしくお願いします。

化学（事務局 岐阜県教育委員会 学校支援課 白木 和雄）

◇同窓会運営

・平成26年8月24日（日）化学科同窓会総会 開催。

総会后、地域再生機構副理事長 野村 典博 氏により
演題「自然エネルギーとは」について、御講演いただいた。

・平成26年11月 同窓会会報「かんきせん」第27号発行
・平成27年3月下旬 運営委員会

◇研究会活動

・岐阜かがく教育研究会の活動

毎月1回ほど、会員5～10名が岐阜大学教育学部附属学校に集まり、指導案の検討や教材開発・実験などを行い、幅広く学び合っている。

平成26年12月末 実践発表会（岐阜大学教育学部附属学校）開催予定
同 日 総会・懇親会（グランヴェール岐山）開催予定

◇現役学生との交流活動

毎年2月に行われる「大学卒業論文・大学院修士論文発表会」に同窓会員も数名参加し、学問研究に触れたり、教育現場の立場からアドバイスしたりしている。

「送別会（追いコン）」にも参加し、学生と教員・産業界等の同窓生との交流を深めている。

生物（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 山村 雄太）

(1) 理事会 年3回

機関誌「岐阜の生物」の編集方針検討、名簿校正作業、機関誌・名簿発送作業などを行っている。

今年度は

- ①平成26年1月19日に機関誌「岐阜の生物」No28の発送作業を行った。
- ②平成26年5月24日に機関誌「岐阜の生物」No29の編集方針を決定した。
- ③平成26年7月6日に名簿校正作業と同窓会総会の打ち合わせを行った。
- ④平成26年1月に機関誌「岐阜の生物」No29の発送作業を予定している。

(2) 機関誌「岐阜の生物」

毎年1月に発行、全会員に郵送している。（本年度は第29号を発刊の予定）

(3) 本年度より、生物科有志による濃飛生物研究会を立ち上げ、活動を行っている。

①平成25年6月 岐阜県立博物館周辺の植物観察会

(4) 隔年で同窓会総会を開催している。

本年度はその年に当たり、大学の先生や学生も含めて8／10に盛大に行った。

音楽（事務局 郡上市立小川小学校 羽土 聡）

昨年11月25日に恩師をお迎えして、3年に一度の総会及び懇親会を実施しました。新入会員も多く参加し、20代から80代会員の絆が深まる会となりました。

本年度は、次回の総会や会報発行にむけて、以下のような活動をしています。

(1) 代表教授との打合せ

・6月19日に棚橋会長が、朝田代表教授と今後の見通しについて打ち合わせました。

(2) 事務局会

・7月20日に、名簿の確認、次回同窓会開催への見通し、会報「間」の内容と編集委員との打合せ、退官される先生方への対応等について検討しました。秋にも実施する予定です。

(3) 会報「間」編集委員との打合せ

・8月24日に、会長、理事長（事務局）、編集委員2名が、平成28年に発行する会報の内容や今後の見通しについて検討しました。

体育 (笠松町立笠松中学校 船戸 崇)

(1) 総会、還暦祝いの会及び懇親会

【期日】 平成26年6月14日(土) 75名出席

【会場】 ホテルグランヴェール岐山

【総会内容】

- ① 新入会員(18人)と物故者(3人)の報告
- ② 25年度会務、事業報告、会計報告及び監査結果
- ③ 26年度事業計画及び予算案の承認
- ④ 大学の近況報告

(2) 事業の内容

- ① 平成25年1月から6月の間に役員会を2回、常任理事会を1回開催して、各種の事業について検討した。
- ② 在学生優秀選手の選出を行い、2月7日に表彰した。
対象者16人にメダル及び表彰式授与した。(役員3名出席)
- ③ 3月25日に新入会員の入会式を開催した。(役員3名出席)

美術 (事務局 岐阜市立青山中学校 小野 由加里)

(1) 全国大会に向けて、平成26年度・夏季研究協議会の開催

昨年度、同窓会評議会(総会)の場で、平成27年度11月12日(木)・13(金)に岐阜地区で開催される「全国図画工作・美術研究大会」に向けての協議が確認されました。その一環として本年度、夏季研究協議会が8月21日に県美術館において開催されましたが、多くの本学科の卒業生が参加し来年度に向けての実践が紹介され意見討議がされました。県下の図工・美術教師として多くの同窓会員が活躍しておりますが、充実した実践を積み重ね研究がさらに深まり、大会にのぞめることを願っています。



【平成26年度岐阜県図画工作・美術教育研究会 夏季研究協議会の様子】

(2) 美術工芸学科同窓会ブログ「ぎふ美術の風」の現状

平成22年に開設し4年目に入りますが、主に各地で活躍する同窓会のグループ展・個展・公募展への出品及び会員の出版物、スケッチ紀行、美術館紀行等々多彩で、写真と文字で紹介しています。現在160個の記事アップ、ブログへのアクセス数23775回となっていますが、同窓会員の交流の場としてさらに充実したものにと願っています。

- ・ブログアドレス <http://gibido.blog134.fc2.com/>
- ・ブログタイトル「ぎふ美術の風」

(3) 第62回(62期生)卒展・在校生展開催

平成26年度卒業生(62期生)による展覧会が平成26年2月18日から岐阜県美術館において開催されました。展覧会の様子は同窓会ブログで紹介されています。次回の卒業・修了制作展、在学生作品展は、平成27年2月17日(火)～22日(日)に行われます。

地学 (事務局 岐阜市立長良中学校 武藤 正典)

◇同窓会・研究会活動

- 「卒業論文・修士論文発表会」への参加
- 「地学年末研修会」の開催

【期日】 平成25年12月29日

【会場】 石金

【内容】 実践交流会、研究会、懇親会など



*毎年、12月29日に開催しています。参加していただける方は、事務局まで連絡をお願いします。

技術・職業 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 佐野 巧)

会員の方に御案内させていただいた通り、「岐阜大学教育学部 技術・職業学科同窓会 総会」を開催いたしました。会場との打ち合わせ、準備や当日の議事進行等で東濃地区理事の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。(期日、内容は夏前に御案内させていただいた通りです。)

【役員会】(年1回)

1. 期日 平成26年7月26日(土)
2. 会場 岐阜大学教育学部附属中学校
3. 内容 今年度の総会について

【総会】(報告)

1. 期日 平成26年10月11日(土)
2. 会場 多治見市「魚網」
3. 議事

1) 同窓会役員選出

平成26年10月より会長、副会長、理事の交代が認められ、新役員体制となりました。

2) 会務・会計報告ならびに会計監査報告

3) 同窓会会則

会則第2章、第5条に「技術教育講座卒業生」を追加する等、一部改正が認められました。

4. 懇親会

※この同窓会総会は3年に一度行われるもので、次回、平成29年度は岐阜地区が会場となります。

ご不明な点などがありましたら、同窓会事務局までお問い合わせください。ご理解とご協力をよろしくお願いします。



家政（事務局 坪井春美）

1 平成26年度の活動

(1) 年次代表者の開催

平成26年4月19日にグランヴェール岐山にて、総会の内容等について検討しました。

(2) 役員会の開催

平成26年7月19日に、次期幹事も参加し、総会開催に向けての準備、打ち合わせを行いました。

(3) 会員の現況調査及び名簿の作成

名簿管理のため、年次代表の方に依頼し、会員の現況調査を行いました。また、総会開催に合わせて、平成26年度版名簿を作成しましたので、出席者と希望者に配布します。

2 今後の活動

(1) 同窓会総会

総会を平成26年8月10日(日)に予定していましたが、悪天候のため、12月14日(日)(予定)に延期しました。
是非、ご参加ください。

次期総会は5年後の平成31年8月に開催予定です。

(2) 会員名簿

毎年5月頃に、年次代表者を通じて名簿の確認を行いますのでご協力をお願いします。名簿の作成は総会開催年のみです。

英語（事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 水崎 綾香）

学科として、総会等の定期的な活動は行っておりません。

各学年の情報等、事務局までお知らせいただけるとありがたいです。また、同窓会名簿等の修正につきましても、情報をお知らせください。よろしくお願いいたします。

学校教育（事務局 安田 和夫）

2年に一度開催する同窓会総会及び情報交換会を下記により開催します。ご参加をお待ちしております。

お問い合わせは、

FAX専用電話0584-82-1967まで(事務局 安田)。

- 1 日 時 平成27年2月1日(日) 13時30分より
- 2 会 場 グランヴェール岐山
- 3 総 会(13時30分～15時40分)
 - (1)挨拶、議事、会務報告等
 - (2)記念講演、卒業生研究発表
 - (3)ミニトーク 岐阜大学の「今」と「これから」
- 4 情報交換会(16時00分～18時00分)

平成26年度 各学科同窓会事務局

講座名	学科	所 在 地		担当者	電 話
国語教育	国語	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	小島光太郎 058-271-0320
社会科教育	史学	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属小学校	高木 良太 058-271-3545
	地理	〒503-0303	海津市平田町野寺 1023	海津市立海西小学校	坂口 亨 0584-67-3101
	法経	〒501-6241	羽島市竹鼻町 226-2	羽島市教育委員会 スポーツ推進室	丸山 靖生 058-393-4622
	哲学	〒506-8688	高山市上岡本町 7-468	飛騨教育事務所 教育支援課	田中 明 0577-33-1111
数学教育	数学	〒502-0832	岐阜市千代田町 2丁目	岐阜市立長良西小学校	森 誠 058-232-5222
理科教育	物理	〒501-5123	郡上市白鳥町中津屋 360-3	郡上市立大中小学校	奥田 好紀 0575-82-2039
	化学	〒500-8570	岐阜市薮田南 2-1-1	岐阜県教育委員会 学校支援課	白木 和雄 058-272-1111
	生物	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	山村 雄太 058-271-0320
	地学	〒502-0817	岐阜市長良福光 2070	岐阜市立長良中学校	武藤 正典 058-231-7207
音楽教育	音楽	〒501-4305	郡上市明宝小川 632	郡上市立小川小学校	羽土 聡 0575-87-2871
美術教育	美術	〒502-0858	岐阜市下土居 2丁目 27-1	岐阜市立青山中学校	小野由加里 058-294-1555
保健体育	体育	〒500-8720	岐阜市神田町 1丁目 11	岐阜市教育委員会 学校指導課	川治 秀輝 058-265-4141
技術教育	技職	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	佐野 巧 058-271-0320
家政教育	家政				坪井 春美
英語教育	英語	〒500-8482	岐阜市加納大手町 74	岐阜大学教育学部附属中学校	水崎 綾香 058-271-0320
学校教育	教育				安田 和夫

●編集後記●

最近の数年間に岐阜で教育各分野の全国大会が続いて行われる。交通や情報の手段が便利になっても、岐阜は日本の教育や文化の中心のようである。学校教育や教員養成の歴史は140年程になり、教育研究の蓄積は多大である。

「子どもたちのために」といった視点から、これまでの成果をふまえるとともに、将来に向かって幼児から大学、全国と地域、若手とベテランといった様々な人のつながりや連携をつくることが求められている。そのようなときに頼りになるのが長年にわたって育まれた「同窓会の力」であると期待している。

(広報部会 辻 泰秀)

お便り・情報を募集

皆様の近況報告、紙面への掲載希望・クラス会・OB会の報告など何でも結構です。お気軽に同窓会事務局までお寄せください。

岐阜大学同窓会報第20号

発行日 / 平成26年12月発行

発行者 / 後藤 忠喜

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL. 058-293-2344 (平日10時～15時)

FAX. 058-293-2343 (24時間)